

令和4年度 学校評価総括表（林小学校）

- 1 学校教育目標 人権を尊重し、心身ともに健康で、豊かな人間性と確かな学力を備えた、たくましい児童を育成する。
- 2 本年度の努力目標
 (1)すべての教育活動の場面で、「学習意欲」の向上と「自ら考える力」「関わる力」を育成するため、全教職員で意思統一を図り、指導方法の工夫改善を進める。
 すべての教育活動を通して、教職員の授業力の向上を図る。
 (2)道徳性や社会性を高めるため、体験活動や道徳教育・特別活動を充実させる。
 (3)運動習慣の確立と望ましい生活習慣の形成を図るため、学校体育の指導法を見直し、保護者と連携して食育・健康・安全教育を充実させる。

3 総括表 ※ 評価は5段階（S:大変よくできている A:よくできている B:できている C:努力がいる D:大変努力がいる）

領域	評価項目	評価の観点	自 考 察 (成 果 と 課 題)		評価	次年度への改善点等	学校関係者評価 (学校運営協議員)	
			評価	評価			評価	評価
学 校 経 営	経営方針	学校経営方針の周知	「学校は、重点的に取り組んでいることを分かりやすく伝えているか」という設問に対して、90%の保護者が「強く思う」「そう思う」と回答している。教職員の評価でも全員が肯定的に捉えている。よりよい学校経営を行っていく上で、教職員の共通理解と保護者への周知は欠かせないものである。今後も教職員間の共通理解の徹底、保護者への周知に取り組んでいく。		A	・今後も教職員間の共通理解の徹底、保護者への周知に取り組んでいく。	A	A
	開かれた学校	保護者や地域住民への情報発信・連携	情報発信と保護者・地域との連携において、保護者の95%、教職員の100%が肯定的な評価をしている。今年度はほぼ毎日学校ホームページを更新することができた。また、毎月、学校便り、学年便りを発行し、情報発信に継続的に取り組んでいる。それらの成果が表れてきていると感じている。		A	・各教科の学習において、積極的にゲストティーチャーを招き、地域人材を生かした教育活動を実践する。	A	
	学級経営	一人一人を主人公にする学級経営の実践	94%の児童が「学校がとても楽しい」「学校が楽しい」と肯定的に回答している。また、教職員の94%が「一人一人の個性や能力を生かす教育ができている」と自己評価している。しかし、「学校があまり楽しくない」(8名)「学校が全く楽しくない」(1名)と回答している児童もいる。この原因を分析するとともに、今一度各学級担任が自らの学級経営を振り返る必要がある。そして、これまで以上に児童の気持ちに寄り添い、仲間づくりを中心に据えた学級経営を行っていかなければならない。		B	・今後も児童理解の時間を定期的に設け、全教職員で共通理解を図り、児童の指導に生かしていく。 ・面談や電話連絡、連絡帳等を通して、保護者との連絡・連携を密にし、同一歩調で児童の成長を促す。	A	
	教職員の資質向上	授業力の向上 組織力の向上	90%以上の児童が「授業の内容を理解している」と答えている。教職員は日々教材研究に努め、わかる授業を実践している。また、一人一台端末を効果的に活用した「主体的・対話的・深い学び」となる授業に向けて授業改善に取り組んでいる最中である。今後も校内研修を中心に教職員の指導力向上と授業改善に努めていく。 組織力については、保護者の91%が「教職員がよくまとまり、それぞれが役割を果たしている」と回答している。今後も教職員が一丸となって、児童の指導にあたりたい。		B	・校内研修の充実を図り、教職員一人一人の授業改善や指導力向上に取り組む。 ・ミドルリーダーの育成と若手教員の授業力向上を図るため、メンター制度の充実を図る。 ・今後も、何でも相談できる職員関係の構築を図り、全教職員で児童支援を行う。	B	
	環境整備	安全できれいな教育環境の整備	96%の保護者が「学校はよく清掃され、掲示や花壇などきれいな環境である」と回答している。児童の94%も「時間いっぱい一生懸命そうじができている」と回答しており、児童と教職員が一丸となって環境整備に努力していることがわかる。今後も継続したい。		A	・清掃時間の取組について、教職員で見直しを図り、さらなる充実に努める。 ・委員会活動(保健委員会・環境委員会等)を中心に、全校児童で「美しい学校づくり」に取り組む。	A	
教 育 活 動	学力向上	基礎・基本の定着 学習意欲	児童アンケートでは「進んで読書している」が63%と他項目と比べると低い結果となっている。さらに「家庭で読書や勉強を自分から進んでしている」と答えた保護者は55%に留まっている。読書活動の充実が本校の重要課題の一つである。望ましい読書習慣の定着に向けて、国語主任や図書館主任を中心として研究を進めていく。そして今後も家庭と連携し、児童一人一人の読書習慣並びに学習習慣定着に向けての取組を継続していきたい。		B	・本校の実態にもとづく「学力向上実行プラン」を設定し、それに基づく着実な実践を全教職員で行う。 ・家庭読書の充実を図る。 ・朝の読書時間を確保し、読書習慣の形成を図る。	B	
	心の教育(人権教育)	人権尊重の精神の育成 いじめ防止	今回のアンケートでも99%の児童が「友達を大切に、仲良くできている」と答えている。しかし、保護者アンケートでは「学校はいじめは絶対に許されないことを学校教育全体を通じて、子ども一人一人に徹底していると思うか」の回答が81%と、少しの開きがある。児童アンケートの結果を鵜呑みにすることなく、今後も児童一人一人の人権を尊重した学校・学級経営に取り組んでいきたい。		B	・「いじめ防止子ども委員会」の活動を活性化し、定期的・継続的に活動することで、学校全体で人権意識の高揚やなかまづくりを進める。 ・校内研修の充実を図り、教職員の人権教育に関する知識・技能の向上に努める。	B	
	生徒指導	遵法精神の育成	きまりの遵守や善悪の判断については、児童の95%、保護者の93%が肯定的に評価している。今後も道徳の学習を中心に、学校の教育活動全体を通して、きまりの遵守、善悪の判断等についての指導を徹底していきたい。また、学校便りや学級便り等を通じ保護者との共通理解も深めていく。		A	・育成センターや警察などの関係機関との連携を深め、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材にも引き続き支援をお願いする。 ・道徳や特別活動の時間の指導を充実させる。	A	B
	健康・体力づくり	基本的な生活習慣の確立 運動習慣の定着	「早寝早起き」については「よくできている」「できている」と回答した児童が68%、保護者も「規則正しい生活ができ、進んで運動しているか」という問いに対し、肯定的な評価は70%にとどまっている。小学生の睡眠不足も大きな問題となっている。学校と家庭が連携して基本的な生活習慣の定着・向上を目指す。 運動習慣については「自分から進んで運動をしているか」という問いに対し、児童の約75%が「よくできている」「できている」と回答している。全国的にも肥満傾向児童の増加が大きな問題となっており、本校も例外ではない。体育の授業を中心として児童の運動する時間を確保し、運動習慣の定着とともに体力向上に努めていきたい。		B	・基本的な生活習慣の確立に向け、家庭と連携した取り組みを継続する。 ・休み時間の外遊びを推奨し、児童の運動習慣確立に努める。また水泳カード・なわとびカード等を効果的に活用し、それぞれの学習終了後には、賞賛の機会を設ける。 ・引き続き徒歩通学、外遊びを奨励する。	B	
	安全教育	危機に対処する能力の育成	「災害や事故から自分を守る方法を知っている」と回答した児童は91%、保護者は74%となっており、学校における安全・防災教育の成果が出てきている。今年度は地震・火災・河川の氾濫を想定した避難訓練や不審者対応訓練、防犯教室などを計画的に行うことができた。今後も警察、市青少年育成センター等関係諸機関と連携を深め、協力を得ながら児童の命を守るための多様な訓練を実施していきたい。		A	・児童が防災教育で学んだことを家庭で保護者と話し合う機会がとれるようにワークシート等を工夫する。 ・多種多様な避難訓練を実践し、児童の防犯・防災意識や実践力の向上を図る。	A	

- 4 学校運営協議員さんからのご意見
- ・コロナ禍でも書道パフォーマンス体験、県管楽発表会への参加など、体験学習を多く取り入れ、前向きな教育が展開されている。引き続きお願いしたい。
 - ・様々な教育課題に対する具体的な対策が望まれる。そのためには保護者や地域はもちろんのこと、行政の力も必要。今後も外部に向けてのアピールや要望を続けてほしい。
 - ・学校の困っていることがあまり見えない。一方的な発信にならず、その効果の検証も含めて実施してほしい。
 - ・さらなるタブレット端末の効果的な活用について工夫してほしい。

- 5 総合評価
- 児童アンケートと保護者アンケートから「読書習慣の確立」「早寝早起き」という2つの大きな課題が浮き彫りになった。「読書習慣の確立」に向けては、日課表の見直しを図り、毎日読書の時間を確保したり各学年ごとに図書室の本を借りる日を決め、学年全員が図書室に行き、一緒に本を借りたりする。このように少しでも本に触れる機会を今まで以上に増やしていく。「早寝早起き」に関しては保健便りを中心に、学校便り、学年便り、HP、授業参観、家庭訪問、個人懇談など、あらゆる機会を通して継続的に家庭へ啓発していく。また、児童へも早寝早起きの大切さや効果について、保健や学級活動などの時間を用いて計画的に指導していく。他にも「肥満」「学力向上」が本校の課題である。課題の改善に向けて、教職員の指導力向上はもちろんのこと、家庭の協力も欠かせない。校内研修を中心に教職員の指導力向上を図るとともに、家庭への効果的な啓発方法についてもさらに研究を深めていきたい。